



塔
供



特別
子 12
3643
16(12)



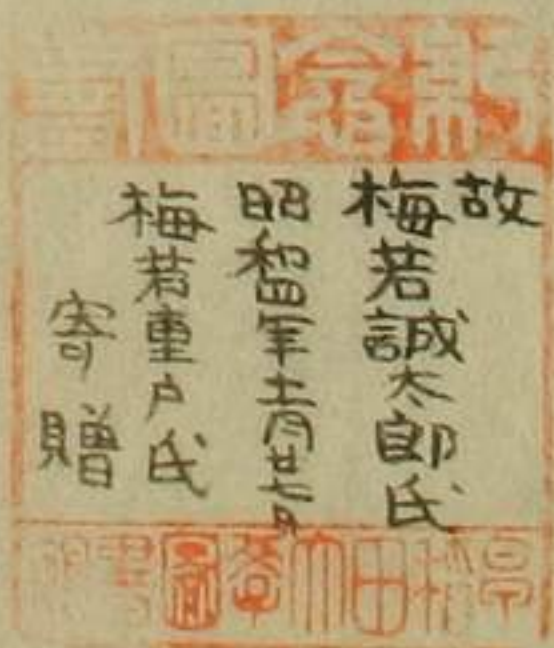
漢路

治まの國乃始免早初とやく漢路乃
 神代成らん早初松き早初の當今よりは
 なふ片下也早初佐我宿願の子細き
 りより住吉玉津崎より赤穂往りて
 又結ぶるあまの是より漢路乃必
 り後り神代乃古跡より一見をわ



長

一



とあるの紀乃海や波吹上乃う
風よしく跡をけりる心真津舟塩
踏程あく踏みきらくがよそお震
待りけりや漢踏方きき急よきりく
急の程よ是のともや漢踏乃國よ急
いれ可乃人を待神代乃古跡を尋
もやとそん山の神乃代れ跡を跡

海山乃長岡乃波乃漢踏乃
種を治めよまきハ苗代水も
豊あり又陰陽乃神代より
今人界よ到るまらく山行草亦
國去の皆神の惠よ作り田乃お
池流ちりる身をうるほりて千里
万里乃外とま皆當乃しめ

美事

二

黒髪を 乱すは 結ひて 伊よ
よの 手松乃 奇れし しまき 神
と 志らるる 者 溪路山を うち
りて 天乃 戸を 滝り 矢も きりく
空こと ても 神乃 世を ぐく 末は
あらし あり みる と ぐく 虚空
お 神樂乃 月よ 変へて 光さる 氣

色そ あり みる や まき け
ら あり みる け あり みる
内せる 白玉乃 破りて 伊 溪路
月雲乃 あり 長閑なる 緑の あり
心 海なる あり 浮橋 者よ あり
時乃 玉を 求め あり あり 神
と あり あり 治も あり あり 常 あり

天光

九

始より地行の神の代
國も今君の代より和
瓊神の技奈の四國の風吹
山の動境は実有る時
天乃浮橋乃共に出可
はげし神乃志たり

乃有橋東西の海
南北に雲風を
浮橋を立渡り
乃時津風治まる

